人間社会

地球温暖化

棚橋　訓　/　TANAHASHI, Satoshi

人間科学系 / 文教育学部人間社会科学科 / ジェンダー研究センター

http://jglobal.jst.go.jp/public/20090422/200901005434728460

■研究者情報

連絡先

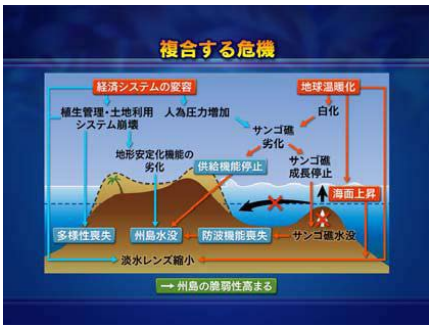
Email: tanahashi.satoshi[at]ocha.ac.jp

専門分野

文化人類学、社会人類学、歴史人類学、景観研究、ジェンダー／セクシュアリティ研究

■研究成果情報

地球温暖化と国土保全―オセアニア研究からの提言



キーワード

地球温暖化、海面上昇、複合的危機、景観形成史、社会＝文化システム、国土保全政策

研究内容

■概要（背景・目的・内容）

地球温暖化、海面上昇、都市化などが引き起こすオセアニア島嶼環境の破壊過程に着目し、学際的なフィールドワークによる景観形成史と社会＝文化システムの解明から、オセアニア島嶼環境の複合的危機の根を探り、国土保全の政策提言を試みている。

■プロセス・研究事例

マーシャル諸島共和国、ツバル、キリバスにおいて、センサス情報、人口動態統計情報の収集調査、フィールド･センサス調査、文化人類学的手法によるライフヒストリー調査を遂行し、人口構造動態（移動による人口配置の経年変化と人口圧変動）と社会経済変動の総合的解明作業を実施した。さらに、生活圏形成の特質の重層的解明のために人口動態と景観構築過程に関する歴史人類学的調査を実施した。また、文化人類学的手法による民俗語彙（現地言語の語彙によるカテゴリー化）の調査に基づく現地社会の環境認識（伝統的生態知識体系）の分析を実施した。本研究により環礁州島の人口構造動態の流動性の高さ、この流動性に起因する環礁州島間の社会的ネットワークの重要性、そして、ネットワークによって結ばれた社会的潜在人口が生み出す人口圧の重要性をミクロなレベルにおいて解明することができた。特にツバルの事例研究から、年間で島人口とほぼ同数の移出入が延べ数で生起していることが判明し、環礁州島上に成立する社会を極めて流動性の高い開放系システムとしてモデル化すべきことが明示された。以上の解明点は、閉鎖系システムとして環礁社会を捉える旧来の視点から離脱して、開放系システムであることを前提とした環礁州島の環境政策提言を強く促すものである。

■潜在可能性（応用・将来展望）

本研究の成果は環礁州島の土地と水を含む自然資源の保全や利用を考える際に、人口の流動性とネットワークを基礎条件として具体的な政策提言や適応オプションを組み上げていくことの重要性を示唆している。今後、直接的な現地ワークショップ、シンポジウム、web、論文などを通じて、この研究成果の広報･普及に努めていく。

特許・著作物等の知財情報、製品化情報、あるいは社会貢献実績

1) Tuvalu on the Front Line of Coral Reef-Human Symbiosis Studies: A Dialogue between Analysis and Interpretation（2009年7月25日、慶應義塾大学三田校舎、観客90名）、2) Workshop on Adaptive Measures to Changes in Geomorphology and Water Resources on Atoll Islands Countries（2009年8月7日、マーシャル諸島共和国政府環境保護局、参加者45名）、3) Public Meeting for Majuro Local Community: Outline of the Research and the Reburial Ceremony（2009年8月7日、マーシャル諸島共和国マジュロ環礁ローラ島最高位首長宅、参加者40名）、4) The Marshall Islands Journal（nation-wide daily newspaper, pp.10-11. August 24, 2007）、など。

産学官・社会連携の可能性

■共同研究
■国際協力
■知見の教授・共有（公開講座、ワークショップ等の実施／出版／その他）